



「自分と関係者以外で、ストームライダーをかけてる釣り人を釣り場でみたいですね」



「下からの光が大事って、こういうのは普通はないです」



「釣りともメガネの要素がうまく融合されてますね」



スペシャルコラボモデルをリリース！



ストームライダーの発売を記念して、スペシャルコラボモデルをリリース！
購入方法などの詳細は47ページへ！

このページの商品へのお問い合わせは
メガネの愛眼 Tel. 06 -6772 -3406

STORM RIDERとは？
produced by Aigun Co., Ltd.

荒れ狂うコンディションを乗りこなし結果をだすというイメージから名づけられた、メガネの愛眼によるアイウェアブランド。愛眼各店舗はもちろん、全国の釣具屋さんでも購入可能。ただし度付き対応は愛眼店舗のみとのこと。

一体成型のフレームでは難しい複雑な立体表現にも果敢に挑戦。エッジを利かせたデザインで太陽光の進入を防いでいる。

釣りならではの機能として、水面からの反射を抑えられるレンズの取り付け角を設定した独自のスラントシステム。

鼻パーツを樹脂に直接埋込むタイプ（写真上）から交換可能で丈夫なタイプ（下）に生産途中で変更。納期よりクオリティを優先するこだわりだ。

わずかな違いにこだわるほど種類は多くなるというメガネ屋の常識から、ファーストラインナップは6モデル各4色で計24種と多数展開。

SR-001-P
SR-002-P
SR-003-P
SR-004-P
SR-005C-P
SR-006C-P

なので（笑）、気にせずガンガン使えます！もちろん手入れは大事ですが、高い総合点を長期間キープする偏光グラスですね。完璧ですよ！！ではないですが、単純に、コスパ高いですよ！と。一部の方に最高級のものよりも、沢山の人が気軽にええもんっていうか。開発チームの一員、宇佐川さんはどうでしょうか？

宇佐川「ウチの実店舗だけではなく、釣具屋さんで売っているのを聞いて、発想は面白いけど、実際そんなことできるのになって思いました（笑）。でもフィッシングシーンから始まって、いろいろな方に声をかけてもらって、面白くやらせてもらってます。サングラスなの下からの水面反射の光をまづ考えるっていうのは普通はないんで、物として特殊だとは思いますが、でもそういう性能面もそうですが、実際にかけてみたお客様から、なによりフィット感がいいといわれるので、そこは単純だけど

大前提だなんて、セールストークにしています（笑）。そして山口さん。山口「いままで触れ合ってきた釣り業界の方とお話をしたりして、たいへん刺激を受けています。アイテムとしては、シリコンパーツによるベンチレーション機能や風除けのシェイプなど、釣りに必要とされる要素と、これまで自分達がやってきたメガネの性能がうまく融合されてますね。いまは愛眼のイメージが強いですが、のちのちはストームライダーとして独立したブランドになってもらえればいいかなと思ってます」。

そんなチームの思いを乗せて、いよいよリリース開始ですね！藤岡「いろいろありましたが、これからはあると思うんですが（笑）、なによりまずはしっかりとみなさんにデリバリーするというのが直面的目標です！その次は、続ける。ですね。大きくみてブランドとしての継続もありますし、フィッシングショーもそうですし、もちろん新作をリリースするというのも、続ける。ですね。最後に釣りの目標は（笑）？藤岡「世界記録（笑）。というのがありますが、やっぱり続けたいですね。フィールドも社会情勢も含めて、バスフィッシングを続けていけたらいいなあと。ロッドとリールを買う目的がなくなったら、偏光グラスを買ってほしいといえないです（笑）。あとは、自分と関係者以外でストームライダーをかけてる釣り人を釣り場でみたいです。もしいたら、絶対うれしくて声かけます（笑）」。

タイムグリーンにビビッときました
かけているのは…… SR-002

プライベートの釣行でもこれかけてます
かけているのは…… SR-002

スポーツだからこそカラーは冒険するべきです！
かけているのは…… SR-001

宇佐川のおすすめ
SR-005C-P
フレーム：ブラック×タイムグリーン
レンズ：オリーブグリーン

藤岡のおすすめ
SR-004-P
フレーム：イエローブラウン×マットブラック
レンズ：オリーブグリーン

山口のおすすめ
SR-005C-P
フレーム：Pホワイト×ガンメタル
レンズ：テンダーグレー

注目度急上昇の偏光グラス **STORM RIDER** 開発チームを直撃取材！

フィッシングショーから始まる新製品ラッシュのなかで、ひときわ脚光を浴びていたのが、バスフィッシング用偏光グラスへの新規参入を果たした、国内大手メガネメーカー、メガネの愛眼によるストームライダー。その開発チームを直撃し、ブランド、アイテムへの思いを探る！

アイガン

宇佐川哲央
おもに流通などのデリバリーを担当する。子供の頃からスポーツが好きで、いまでもジョギングやフットサルなどで汗をかいている。

藤岡一博
バス釣り好きが高じて自社内（つまりはメガネの愛眼）に偏光グラスブランドを立ち上げた張本人。60cmアップ捕獲済の釣りウマだ。

山口倫広
釣り関係のメディアだけでなく、一般メディアへの窓口となる広報・広告担当。ウインタースポーツが好きで冬は雪山に足を運ぶ。

メガネ屋だからこそ、メガネとして使えることにこだわりました



大阪のフィッシングショーには毎年遊びにきていたという藤岡さん。好きなのは巻き物で、撃ち物は苦手。いまハマってるのはシンキングブロップ。バスが追ってくるのもみえるのが楽しいとか。



大阪ショー前の本誌3月号にてアピールできたのが、ショーにお客さんが来てくれた理由だとありがたい分析をしてください。

好きから始まったメガネのプロによる偏光グラスの大阪にあるメガネの愛眼本社の会議室。ズバリならんだストームライダーのモデルと数々の資料群と開発チームのリーダー的存在の藤岡さんが迎えてくれた。まずは、メーカー的な立場としての手こたえはありますか？藤岡「おかげさまで釣具店様から多くの注文を頂き、感謝と共に気が引き締まる思いです（笑）。異業種でしかも名の通った上場企業のメーカーさんの参入なので、注目度の高さを証明ですね。ターゲットしたんですけど、業界の方々が熱く歓迎してくださってよく考えるとエライことだ」と。

という藤岡さんは、言葉の通りに大のバス釣り好きだ。藤岡「中学のときにバス釣りをして、社会人になってもう一回やったら、おかげで午前中だけで50アップを3本釣って、それからドブブリ（笑）。久しぶりに雑誌も読んでみましたが（苦笑）、ルアマガさんで勉強させてもらってます。読者のみなさんと同じように、自宅の風呂でワームのスイムテストをして嫁に怒られたりしますね（笑）。それとウチは社長も釣り好きなんです。磯釣りですが（笑）。でもそれもあって、プロジェクトが進行しやすいのも確かですね」。

が、目の保護ですね。シンカーが当たったとか、目の怪我で釣りから離れてしまうことがあったら辛いなど。だとしたら、自分のやっているメガネ作りが役に立つかもなというのはまずありましたね。そんな思いから着手し、完成したのがストームライダーだ。藤岡「見えない偏光グラスは当然作ってはいけませんけど、メガネ屋はまずフレームありきなんです。メガネとサングラスの差は前から気になっていて、その意味でもメガネフレームと同じくオリーブで偏光グラスを作りましたというのが一番のこだわりですね。それと、安全面でも材質にアレルギ―性物質があったらダメだとか、塗料が劣化したらどうなるかとか、メガネ屋ってそういうのめっちゃ気にするんですよ。熱による変形やサビもそうです。でもサングラスって、モノによっては、本体がワシントンで錆びたり、縮んだりするものがあるんですよ。これはそんなにデリケートじゃない



メガネとしての仕上がり自信は、度入りメガネとしての販売も予定しているように明らか（販売はメガネの愛眼店舗のみ）。実際に開発チームの皆さんも度入りのメガネとして愛用している。